

万能織機シヨンヘル

テキスタイル塾講師

婦人服担当 足立 聖

尾州産地はシヨンヘルで、この産地の基礎である技術力を築いてきた。そのシヨンヘルが消え去る時、尾州産地も崩壊し消え去るのではないか。レピア織機の台頭が流通の短納期、高速化へと流れを変え、シヨンヘルの衰退を加速させた。

しかし万能織機・シヨンヘルは、一部は見本用機として又高度なテクニックを必要とする複雑な糸使い、複雑な組織の織物を作る手だてとして、その道が残ってきた。自分がこの仕事に就いた時は、シヨンヘルで仕事を覚え、テクニックを覚え、自分の力を付けていった。

〈シヨンヘルとレピア織機の比較〉

	シヨンヘル	レピア
①	機械が安価である	機械が高価である
②	糸を選ばない	糸を選ぶ
③	箆の仕掛け幅は自在（一枚でo k）	箆の仕掛け幅は設計時に固定（何枚も必要）
④	回転数遅い	回転数が速い（高速）

シヨンヘルで作った傑作を紹介する。

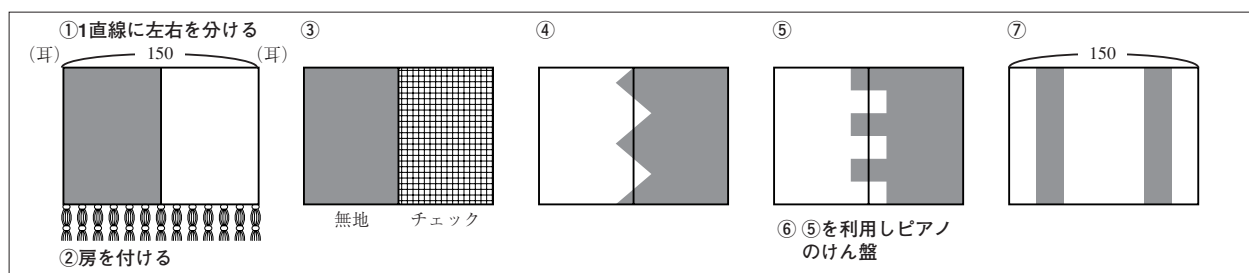


左の図は2/60の平織りでトロピカル仕上である。無地のトロが¥1,200/疋の時に、この物は¥2,600/疋で売っていた。当時工賃機屋さんに支払った工賃は¥800/疋だった。

特に色を左右に対比させ意匠力を一杯出し、商品力をアピールしてきた。

見てわかるように、この布はピアノ鍵盤をモチーフに使っている。モーツァルト生誕500年をテーマにして依頼を受け作ったものである。この時のもう一点は五線符を白地の上に作りゴールド刺繍で音符を入れるという物だった。

この経糸を織機の上で絡み合わせる織方で色々な工夫が出来る。商品化した参考例を示す。



等々色々な事が出来るが、シヨンヘルだからこそ出来るものである。レピアでは織れない。

基本的には平織りを使ったが、まだまだ他のテクニックを加えればもっとおもしろい物が作れると思う。